

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北見工業大学

1 全体評価

北見工業大学は「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を基本目標としている。第3期中期目標期間においては、学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進するとともに、大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携等実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、強みであるエネルギー・環境分野の強化とともに、地域課題解決に貢献できる技術者養成を推進するため、「大学院博士前期課程改組に関するワーキンググループ」を設置し、検討を進めているほか、北見市教育委員会との連携の下、小学校学習指導要領改訂に伴うプログラミング教育必修化を見据えた「プログラミング教育に係る管理職等研修会」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 平成28年度に北見市から無償貸与された遊休公共施設（競馬場跡地）において活発な教育研究活動の実施及び学生参画による小中学生向けイベントを開催するとともに、各種活動の情報をオホーツク地域の市町村訪問やウェブサイトを通じて発信することに加え、地域の関係者向け報告会の実施等、積極的な啓蒙普及活動を行っている。（ユニット「地域と連携した雇用創出及び学生の地元定着」に関する取組）
- 大学の強みであるエネルギー・環境分野の強化とともに、地域課題解決に貢献できる技術者養成を推進するため、平成33年度の大学院博士前期課程改組に向けて学長を座長とした「大学院博士前期課程改組に関するワーキンググループ」を設置し、特色を活かした専攻の構成、学部との接続、専攻横断的な教育の導入を実行するための教員組織の在り方等をテーマに議論を進めている。また、平成31年度から社会人向けの新たな教育体系である「大学院ユニバーサルコース」を大学院博士前期課程に設置することを決定している。（ユニット「地域貢献と地球環境に重点を置いた教育研究組織の再編」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 各種取組の積極的推進による外部資金比率（寄附金）の増加

グループウェアによる助成金公募情報の掲載及び英文による奨学寄附金申出書の作成等、寄附金獲得に関する施策に積極的に取り組んだ結果、外部資金に係る寄附金比率が1.6%と昨年度から0.4%上昇している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載22事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 学外有識者等による地域貢献授業科目の認定

オホーツク地域の特色や自然環境保全と大学との関わりを理解して、地域の課題解決に貢献する人材育成を図る授業科目群を「実践的教育プログラム」と定義づけ、外部有識者や行政関係者等の学外委員で構成される委員会においてプログラム認定を行っている。

○ 教育委員会と連携した小学校教員へのプログラミング講義の実施

平成32年度に改定となる小学校学習指導要領におけるプログラミング教育の必修化を踏まえ、北見市教育委員会との連携の下、技術部職員が講師となり北見市内小学校の管理職及び教務主任等を対象とした「プログラミング教育に係る管理職等研修会」を実施している。